

ZANDEN Model 120 の展開(82) ーベーターヴェンを聴き直す(17)ー

1. 始めに

前報(81)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンのピアノ協奏曲を選定しました。

キングレコード K28C-61

ピアノ協奏曲第 1 番ハ長調作品 15

ピアノ協奏曲第 2 番変ロ長調作品 19

ラドゥ・ルプー (ピアノ) ズビン・メータ指揮イスラエルフィル

RCA RVC-2127

ピアノ協奏曲第 2 番変ロ長調作品 19

アルトゥール・ルビンシュタイン (ピアノ)

ダニエル・バレンボイム指揮ロンドンフィル

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(31\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(32\)](#)

3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

キングレコード K28C-61 のルプー盤は、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

盤質はあまりよくありませんが、ルーマニア出身の気鋭のピアニストであるルプーの演奏は若干粗削りですが、若く澁淵とした演奏ですし、指揮のメータもルプーとのコンビで澁淵とした協奏曲を作っていることが分ります。

RCA RVC-2127 のルビンシュタインは、EMI、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

この盤の聴きどころは、なんと言ってもルビンシュタインの柔らかで優雅なピアニズムです。バレンボイム指揮ロンドンフィルもソフトタッチの響きのハーモニーでそれを支えます。ルビンシュタインの円熟味のある音楽性を感じさせてくれる盤です。

4. まとめ

前回の試聴同様、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上